

第4学年 音楽科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業I

児童 4年4組 男子16名 女子19名 計35名

指導者 黒瀬 恵子

1 題材名 せんりつの重なりを感じ取ろう 教材「パレードホッホー」「ファランドール」「雨の公園」「もみじ」

2 題材について

(1) 題材について

本題材は学習指導要領のA表現(1)歌唱イ、ウ、エ、(2)器楽ア、イ、エ、B鑑賞ア、イ、ウ、共通事項(1)ア(ア)(イ)との関連を図り、指導を行っていくものである。特に、「互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」「曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること」「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと」共通事項の中の「旋律」「音の重なり」を重点化して指導していきたい。

本題材では、歌声や楽器の音を聴き合いながら、声や音を合わせて演奏する能力をさらに伸ばすとともに、旋律が重なり合う響きを味わうことができるようにする。また、表現と鑑賞を関連させて取り上げることで、旋律の反復や重なりが生み出す曲想を味わい、それを生かして楽曲の構造に気を付けて、音楽を聴くことができるようにしていく。

この題材は、5・6年生の「いろいろな音のひびきを味わおう」「和音の美しさを味わおう」の学習につながるものである。

(2) 児童について

児童は、「子どもの世界」で対照的な2つの旋律を重ねる楽しさを体験した。「歌劇『魔笛』から『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』」では旋律の掛け合いや重なりを聴き取り、響きのおもしろさを感じ取りながら、情景を想像することができた。「陽気な船長」では旋律の違いに気付き、それぞれの旋律の特徴を生かした表現の工夫をするなど、重なり合う音を聴き合いながら、リコーダーで二重奏をすることができた。

音楽の学習に意欲的な児童が多い反面、リコーダーの運指や読譜に課題があり、苦手意識をもつ児童もいる。また、熱心に表現するが、歌声や音を聴き合ったり、感じ取ったことを音楽の諸要素と関連付けて言葉で表現したりすることは難しい。

(3) 指導にあたって

2つの対照的な旋律の特徴を、歌や身体表現等で感じ取ったり聴き取ったりしながら、旋律を重ねた時の楽しさや面白さを実感させたい。また、旋律の反復や重なりを言葉で表現させることで、楽曲のもつよさに気付かせたい。さらに、リコーダーの新しい奏法であるサミングの演奏の仕方を身に付け、輪奏によって音の重なり合いや響き合いを感じ取らせていきたい。「見通す」活動として、既習事項と結び付けたり、イメージをふくらませたりすることをしっかりと意識させたい。また、「振り返る」活動としては、ペアや全体で交流することにより、友達の表現のよさや工夫に気付かせることで、自分の演奏に生かすことができるようになると思う。

3 題材の目標

- 旋律の特徴や重なりに興味・関心をもち、進んで表現したり鑑賞したりしようとしている。
【音楽への関心・意欲・態度】
- 旋律の特徴を生かし、旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、互いの旋律が生きるように歌い方や演奏の仕方を工夫し、思いや意図をもっている。
【音楽表現の創意工夫】
- 旋律の重なり合いを感じ取りながら、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌ったり、息のつかい方や音色に気を付けてリコーダーを演奏したりしている。
【音楽表現の技能】
- 旋律の特徴や反復、重なりによる曲想と変化を感じ取り、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。
【鑑賞の能力】

4 指導計画 (せんりつの重なりを感じ取ろう：8時間扱い 本時 6/8)

次	時間	学 習 活 動
一	4	2つの旋律の特徴や重なり、掛け合いを感じ取りながら、歌ったり聴いたりする。
二	2	サミングの演奏の仕方を知り、音の重なりを感じ取りながら、リコーダーで「雨の公園」を輪奏する。 (本時第2時)
三	2	曲想にふさわしくなるように表現を工夫し、二部合唱をする。

5 本時の指導について

(1) 目標

音の重なりを感じながら「雨の公園」を輪奏し、曲想にふさわしい表現を工夫することができる。

